

令和五年度

岡山白陵高等学校入学試験問題

国語

受験番号	
------	--

注意

- 一、時間は六〇分で一〇〇点満点です。
- 二、問題用紙と解答用紙の両方に受験番号を記入しなさい。
- 三、開始の合図があつたら、まず問題が一ページから二四ページまで順になっているかどうかを確かめなさい。
- 四、解答は解答用紙の決められたところに書きなさい。
- 五、字数制限のあるものについては、句読点も一字に数えます。

次の文章を読んで、後の問いに答えよ。

あらためて「倫理」とは何でしょうか。確かに安楽死や臓器移植問題に関する「生命倫理」、日本原子力学会が設けている「日本原子力学会倫理委員会」など、時折耳にする言葉ではありません。しかし、いざその意味はと問われると、一言で言い表すのは容易ではありません。時代とともに、また文化によっても、その意味は変わるでしょう。

本論では、その意味するところを、「道徳」との違いを手がかりにして明確にしたいと思います。倫理と道徳の違い？ 同じ意味じゃないの？ そう思われるのももつともです。実際、大辞林で「倫理」を引くと、「人として守るべき道徳」とあり、両者がほとんど同じ意味で使われていることが分かります。一般的にも、またアカデミックな議論の場でも、両者の区別は必ずしも ^a テツテイ されているわけではありません。

しかし、哲学者や倫理学者のなかには、道徳と倫理のあいだに区別を設ける立場の専門家もいます。もちろん両者のあいだには重なる部分もあるのですが、明確に異なる側面もある。本書では、こうした両者を区別する専門家たちの議論を参考にしたいと思います。なぜなら、現代の複雑化した世界において、その区別はますます重要になってきているように思えるからです。

両者の違いを説明するまえに、ひとつエピソードを紹介させてください。それは私にとって、その違いを痛いほど思い知らされた出来事でした。

当時小学校三年生だった息子をつれて、アメリカに出張に行ったときのことです。^(注1) ハーレーダビッドソンで有名なアメリカ中西部のウイスコンシン州、その中南部に位置するマディソンという湖畔の街で学会が開かれることになっていました。

ホテルに到着し、買い物がてら街を散歩したときのこと。向こうから、四〇代くらいの太った女性がふらふらと揺れながらこちらに近づいてきます。乱れた身なりと手を差し伸べている様子から、物乞いをしようとしていることがすぐに分かりました。

私はとっさに息子の手をぐいと引いて、その女性を避けるように通りの反対側に渡ってしまいました。自分ひとり

ならまだしも、子供もいる状況で、何かよくないことに巻き込まれたら大変だ。その一心でした。

その直後でした。① 息子がパニックを起こしたように大泣きをし始めたのは。なぜ、お母さんはあの人を助けなかったのか。なぜ、かわいそうな人にあんな仕打ちをするのか。ぼくがもし病気になったり障害を持ったりしたら、みんなに冷たくされるのか。あの方は、すごく悲しそうな声で、「ソーリー」と言っていたじゃないか。あの声がぼくの心に残って離れない。とても悲しい。苦しい。そして、息子は何度もこう繰り返したのです。「この気持ちは一生残っちゃうと思う。お母さん、何とかして」。

私は ^b ケンメイに説明を試みました。世の中には困っている人がたくさんいて、すべての人に施し物をする事はできない。その代わりに「税金」という制度があつて、その「みんなからちよつとずつ集めたお金」を使って、困っている人を助ける仕組みになっている。それに、あの人にお金をあげたとしても、お酒を買ってしまったら、あの人のためにならないかもしれないよ。

案の定、私の説明は息子にはひとつもとどきませんでした。結局、ホテルに帰っても一時間くらい大声で泣き続けることになりました。

「困っている人がいたら助けましょう」。これが小学生の頭の中にある行動規範です。なぜなら学校の授業でそう習ってきたし、そうすべきだと自分でも心がけてきたからです。世界は、困っている人が当然のように助けられる場所だと思っていた。

それなのに、その絶対的なルールを、一番身近な大人である母親が目の前でやぶつたのです。パニックになるのも無理はありません。

もちろん、私も「困っている人は助けるべきだ」ということは理解していたつもりです。けれども、あの状況でそれに従うことはできなかったし、従うのが最善ではないかもしれないということ、つまりこの規範がそれほど絶対的ではないということも、いつの間にか知っていました。「困っている人は助けるべきだ」は「タテマエ」であつて、「ホンネ」は別にある。そんなふうに考えていました。

要するに、私と息子は、道徳と倫理のあいだで引き裂かれていたのでした。小学校の道徳の授業で習うような、「○おしなさい」という絶対的で普遍的な規則。これに対し倫理は、現実の具体的な状況で人がどう振る舞うかに関わり

ます。相手が何者か分からず、自分の身を守る必要もあり、時間やお金の余裕が無限にあるわけではない今・この状況で、どう振る舞うことがよいのか。あるいは少しでもマシなのか。倫理が関わるのはこういった領域です。

哲学者のアラン・バディウは、その名も『倫理』という本のなかでこう述べています。「倫理を抽象的範疇（人間、

道徳 (moral)	倫理 (ethics)
画一的な「正しさ」「善」を指向する →万人に対する義務や社会全体の幸福が問題となる	「すべきこと」や「生き方」全般を問題にする →「自分がすべきこと」や「自分の生き方」という問題も含まれる
(Z)と強力に結びつく →「すべき」が「できる」を含意する	(Z)とは必ずしも結びつかない →「すべき」が必ずしも「できる」を含意しない
人々の生活の中で長い時間をかけて定まっていった答えないし価値観が中心となる	答えが定まっていない、現在進行形の重要な問題に対する検討も含まれる
価値を生きること	価値を生きるだけでなく、価値について考え抜くことも含まれる

表1 道徳と倫理の区別 (古田徹也『それは私がしたことなのか』エピローグより)

権利、他者……)に結びつけるのではなく、むしろさまざま状況へ差し戻すことにしよう」。そしてバディウは言います。倫理に「一般」などというものはない、と。なぜなら状況が個別的であるのに加えて、判断をする人も、それぞれに異なる社会的、身体的、文化的、宗教的条件のなかに生きており、その個別の視点からしか、自分の行動を決められないからです。「倫理『一般』などないとすれば、それは倫理『一般』で自己を武装せねばならない抽象的な主体などないからだ」。

哲学や倫理学のような学問の領域に限らず、社会生活のさまざまな場面で、私たちはものごとを一般化して、抽象化して捉えてしまいがちです。「人間」「身体」「他者」という言葉。ほんとうは、そんなものは存在しません。それぞれの人間は違うし、それぞれの身体は違うし、それぞれの他者は違ってきます。

けれどもつついその差異を無視して「人間一般」「身体一般」「他者一般」について語り、何かの問題を扱ったような気になってしまう。もちろん、道徳が提示する普遍的な視点を持つことも重要です。そうでなければ、人は[©]カジョウに状況依存的になってしまい、その場まかせの行動をすることに

なってしまうでしょう。けれども、「一般」として指し示されているものは、あくまで実在しない「仮説」であることを、忘れてはなりません。なぜなら「一般」が通用しなくなるような事態が確実に存在するからです。そして、倫理的に考えるとは、まさに②このズレを強烈に意識することから始まるのです。

さて、倫理が具体的な状況に関わるということをさらに一歩進めて考えるならば、そこでは「できるかできないか」ということが問題になるということの意味します。この点に関しては、哲学者・倫理学者の古田徹也の議論を④サンショウしましょう。古田は、倫理と道德の違いを、いくつかの観点から非常に分かりやすい表の形にまとめています(表1)。

表のうち、一番上の行は、先に確認した「道德Ⅱ X」「倫理Ⅱ Y」に関するものです。「できるかできないか」に関わるのは、次の上から二つ目の行。道德が、「困っている人がいたら助けるべきである」「嘘をつかず、どんなことも包み隠さず話すべきである」等、その人の能力や状況によらない正しさを示すとき、その「すべき」は、③「すべきだができない」というジレンマが発生する可能性を前提にしています。つまり、「すべき」が問答無用の「できる」を含意している。だからこそ、なすべきことをしなかった人は「なぜしなかったのか」と非難されることになります。

これに対し、倫理においては「すべき」とは別に「できるかどうか」という審級(庄)があります。「嘘をつくべきではないことは分かっている。でも、真実を伝えることは彼女を傷つけることになるから、少なくとも今の私にはできない」。まさにこうした、「すべきだができない」状況に、人はしばしば陥ります。「すべきことができる」ならば、それは道德でよいのです。けれども、それでは解決できないとき、^A逡巡しゅんじゆんしながら、人は自分なりの最善の行為を選ぶようになります。倫理が問題になるのは、この迷いにおいてです。

先に紹介したエピソードでも、息子に非難されてから、私の頭を占めるようになったのは「自分には何ができるのか」という問いでした。その瞬間はほとんど反射的に女性を避けてしまいました。息子の反応をきっかけにして、後から迷いがやってきたのです。もちろん寄附をするというのは、すぐに簡単にできることです。でも、いくら倫理が状況に埋め込まれた判断だからといって、その状況下でのベストの行為が、その状況で完結するような近視眼的なものであるとは限りません。長い目で考えるならば、研究者として格差や貧困について何らかの形で考えていくこと

こそ、私ならではの「できること」なのかもしれません。あるいは母親として息子と一緒にアメリカ社会について正しく学ぶことも「できること」かもしれませんが。小学校三年生の息子がぶつけてきたのは「道徳」でしたが、私はそれを「できない」と感じ、^④ 問いは「倫理」の水準に移行したのです。

倫理に「迷い」や「悩み」がつきものである、^⑤ ということは、倫理が、ある種の創造性を秘めているということの意味しています。なぜなら、人は悩み、迷うなかで、二者択一のように見えていた状況（「女性に施しをするか否か」）にも実は別のさまざまな選択肢がありうること（「慈善団体に寄附をすること」「格差や貧困について研究すること」「子供がアメリカ社会について学ぶ機会をつくること」）に気づき、^B 杓子定規に「くすべし」と命ずる道徳の示す価値を相対化することができからです。もちろん、それは定まった価値の外部に出ること、明確な答えがない状態に耐える不安定さと隣り合わせです。しかし、この迷いと悩みのなかにこそ、現実の状況に即する倫理の創造性があるといえます。

先の表では、三、四行目がこのことを指摘しています。道徳は、定まった答えや価値をなぞること、つまり「価値を生きること」が中心になるのに対し、倫理は「価値について考え抜くこと」をも含むのです。倫理という言葉が、「生命倫理」「日本原子力学会倫理委員会」のようなテクノロジと関わる場面で使われることが多いのも、最新のテクノロジーが「生命」や「幸福」といった既存の価値にゆさぶりをかけ、それを現在進行形の、未決定でホットな問題にするからでしょう。^(注3)

(伊藤亜紗『手の倫理』による)

(注1) ハーレーダビッドソン——オートバイメーカー。

(注2) 審級——ここでは「判断の段階」の意。

(注3) ホットな——ここでは「熱く議論されるような」の意。

問 1 〓 線部 ㉑ ㉒ のカタカナを漢字に直せ。

問 2 〓 線部 A・B の語句の、ここでの意味として最も適当なものを次の中からそれぞれ選び、記号で答えよ。

A 「逡巡しながら」

- ア 相手との対話を重ねながら
- イ 自分の過去を後悔しながら
- ウ 様々な新しい経験をしながら
- エ あれこれと思い悩みながら
- オ 自己嫌悪に陥りながら

B 「杓子定規に」

- ア 論理的な正しさのみを求めて
- イ 一律に同じ価値観にあてはめて
- ウ 権力の強さを巧妙に利用して
- エ 細部にまで批判的な目を向けて
- オ 物事の表面的な部分だけを見て

問 3 〓 線部 ① 「息子がパニックを起こしたように大泣きをし始めた」とあるが、それはなぜだと筆者は考えて

いるか。次の説明の A 〓 C にあてはまる言葉を、指定字数に従って本文中から抜き出して答えよ。

自分が A 三字 に正しいと信じてきた道徳的な B 四字 を、 C 十一字 から。

問4 線部②「このズレ」とはどういうものであるか。説明として最も適当なものを次の中から選び、記号で答えよ。

- ア 一般的に理想的行動とされることと現実場面において考えることの間にある隔たり。
- イ 一般化して考えようとする人と具体化して考えようとする人の間の考え方の相違。
- ウ 一般的に存在すると言われていたものが実際には存在しないというギャップ。
- エ 一般化して考えることのメリットとデメリットを比較した上での有益さの度合い。
- オ 一般的なものとして社会認知された考え方と仮説段階でしかない考え方の違い。

問5

X

・

Y

に入る言葉の組み合わせとして最も適当なものを次の中から選び、記号で答えよ。

- | | | | |
|---------|--------|---------|-------|
| ア〔XⅡ具体〕 | イ〔XⅡ善〕 | ウ〔XⅡ心〕 | YⅡ身体〕 |
| エ〔XⅡ社会〕 | YⅡ学問〕 | オ〔XⅡ普遍〕 | YⅡ個別〕 |

問6 次のア～オは本文中の言葉である。表1の（ Z ）に入る言葉として最も適当なものを次の中から選び、記号で答えよ。

- | | | | | |
|------|------|------|------|------|
| ア 文化 | イ 他者 | ウ 非難 | エ 真実 | オ 状況 |
|------|------|------|------|------|

——線部③「『すべきだができない』というジレンマ」とは、筆者が示したエピソードに即して考えた場合、
どういうことにあたるのか。最も適当なものを次の中から選び、記号で答えよ。

ア 困っている人が助けを求めてきたときに、一般論としては助けるべきだとされており自分も助けるべきだと思っただが、相手の女性が怖いという感情が先走り助けることができなかつた自分自身に対する失望感。

イ 困っている人が助けを求めてきたときに、直感的には助けるべきだと思い、実際にその人を助けようと動き出そうとしていたにもかかわらず、自分の思いを周囲の人に理解してもらえないことへの苦悩。

ウ 困っている人が助けを求めてきたときに、理想論としては助けるべきだとわかつており、実践するための手段もわかつてはいたが、実生活においては金銭的余裕がなく継続的な支援はできないという矛盾。

エ 困っている人が助けを求めてきたときに、道義的には自分が助けるべきであり、家族もそれを期待する状況の中で生じてくる、自分の能力では根本的解決は困難ではないかという不安感。

オ 困っている人が助けを求めてきたときに、常識的には助けるべきだとわかつており実行可能であるが、その場で直接当人に施しをすることが自分にとって最適な行為とは思えず実行できないという葛藤。

問 8

――線部④「問いは『倫理』の水準に移行した」とあるが、それは筆者の立場においてはどうかを言っているのか。次の説明の空欄にあてはまる言葉を考えて答えよ。

物乞いをした女性に関して、

三十字以内

ということを考え始めたこと。

問 9

――線部⑤「倫理が、ある種の創造性を秘めている」とあるが、なぜそう言えるのかわかりやすく説明せよ。

(このページに問題はありません)

次の文章を読んで、後の問いに答えよ。

安芸（今の広島県）の呉服問屋の息子長太郎は、姉が江戸の呉服問屋の若旦那、辰之助に嫁ぐことが気に入らない。両家の顔合わせに江戸までついて来た長太郎は、辰之助の身辺を調査するために一人で出かけたが、江戸の賑わいに圧倒され、往來の真ん中で立ちすくんでしまった。その時、店を抜け出して来た辰之助に偶然出会い、江戸を案内してもらえなくなった。昼間から出歩いているのだからろくな男ではない、その証拠をつかんでやろうと思つた長太郎は、素性を隠して定吉と名乗り、浅草を見物した後、隅田川に連れて来てもらった。これは江戸で調べたことが他にもあつたからである。以下は、今は冬なので江戸一番の自慢である隅田川の花火を見せてやれないのは残念だという旨のことを辰之助が語つた後の場面である。

隅田の紅。

藤馬が懐かしんでいた江戸の景色、^① なんだか分からなかつた残りの一つが、あつさり知らされた。

分かりはしたが、目にすることはできないという。

安堵半分落胆半分で気がぬけた。長太郎はへなへなと座り込んだ。

「どうした」

⑦ 優しい声で、辰之助が訊ねる。

長太郎は、懐の布切れを探った。

引つ張り出した小さな四角い布は、鮮やかな紺青色に染め上げられている。品川で見た、海の色だ。

「それ、は」

⑧ 掠れた声で、辰之助は呟いた。

「どこで手に入れたか知らんけど、姉さんが色んな色に染められた、揃いの布切れを幾枚も持ちちよるんです。呉服屋の娘の嗜みのつもりなんじゃろうね。暇さえありやあ嬉しそうに畳の上に丁寧に並べて、眺めとる。これは団

十郎茶、これは鳩羽鼠。甕覗の淡い青に、暗い青緑の高麗納戸。襲も夢中で覚えちよつて、白と蘇芳で梅、萌黄と二藍は葉桜。青に濃紫なら夏萩、槍皮色なら蟬の羽」

国言葉で喋っていることに気づき、照れ笑いを辰之助に向けて「知らん内に私も覚えちよりました」と続けた。そういえば、姉が呉服屋の娘であることも口走ってしまった。恐る恐る辰之助を窺ったが、何か考え込んでいるようだ。どうやら気付かれなかったか、と長太郎は胸を撫で下ろした。

「それで」

① 辰之助が、静かに促す。視線は長太郎の手の中にある、紺青の布に当てられている。

長太郎もまた、手元に眼を落として答えた。

「この一枚だけ借りとつたんです。こつそりね」

「定吉の好きな色なのかい」

辰之助の問いに、首を振った。

「『海の紺青、隅田の紅』。江戸の景色を恋しがっておった人に、最期にひと目見せたらうと思つて」

「亡くなったのかい」

答える代わりに問い返した。

「若旦那は、瀬戸内の海を見たことがありますか」

「いいや、ねえな」

「江戸の海と違つて、大層穏やかなんです。冬場の空もこんなにからつと晴れることは滅多にない。そんなぼんやりした淡い空を映してなのか、海の色も優しい色目をしとつてね。ほんのり鼠色の混じつた、そうやね、熨斗目花色といったらええかもしれん。安芸の生まれのお人なのに、江戸が恋しい、懐かしいといつもおっしゃつたりしました。当たり前かもしれないね。あんなどこまでも深くて鮮やかな、紺青色の海を見ちよつたんじゃ。私は、瀬戸内の優しい海が好きじゃけど」

② ぐつと、長太郎は唇を噛んだ。零れそうになった涙をせき止めるために堅く目を瞑る。

声に涙が滲まないよう腹に力を入れてから、憧れだった人の名を口にする。

「藤馬先生つちゆうて、私ら子供達に手習いを教えてくれとつたお侍様で、元は江戸勤番のお役人でした。江戸の事に巻き込まれ、足に大きな火傷を負って国許に帰された。戻ってから苦勞してお勤めされちよつたのに、お城じやあ使い物にならんちゆうて、お役を解かれたんだそうです。それから手習いの先生をして暮らされとつたんです。が、それまでの無理がたたつたんか、身体を壊して寝付かれ、それつきり」

読み書き、勉強だけでなく、様々なことを教えてくれた藤馬。

男の優しさとは、どんなものか。

人として、どう生きるべきか。

安芸とはどういう国で、周りはどんな様子なのか。

お城は、殿様は。

中でも楽しそうに語ってくれたのが、江戸勤番の折に見聞きした、色々な話だった。

その時だけは、青白い顔にほんのりと血の気がさし、いつも寂しそつた切れ長の目には明るい光がきらめいていた。

江戸が恋しいのだろう。さぞ、楽しい思い出ばかりだったのだろう。

なのに。

③「江戸もんは、好かん」

長太郎は齒の隙間から押し出すように、吐き捨てた。

「何が『火事と喧嘩は江戸の華』じゃ。そん所為で、藤馬先生はあんな好いちよつた江戸に居られんよつたんじゃ」

一度流れ出した想いは、もう止めようがなかつた。

ずつと抱え込んできた江戸への嫉みと怒りの全てを込めて、辰之助の穏やかな顔を睨みつけ、叫ぶ。

「それをお前ら江戸もんは、面白可笑しく自慢しよる。火事で一生を狂わされた者の気持ちなぞ、考えもせんで。だから、江戸もんは嫌いなんじゃ。だいつ嫌いじゃあ」

喚いたら、涙が溢れた。

⑤ 辰之助が困ったように笑っている。

男の癖くせに人前で泣くなんて、悔しい。恥ずかしい。

ばつの悪さが、また新たな涙を誘う。

⑥ 辰之助が傍らに腰を下ろして、長太郎の肩にそっと手を回してくれた。

大きく温かい手が、藤馬とよく似ていた。長太郎は声を上げて泣いた。

わんわんと、人目も憚はばからず泣き続けた。

泣き疲れたというか、泣き飽きたというか、みつともないしゃくり上げもすっかり収まった頃、辰之助が、ぽつり、

ぽつりと、語り始めた。

「江戸ってえ町は火事が多くてな。店やおんぼろ長屋がひしめき合ってるから、あつという間に火が広がりやがる。

家を失くしたり、⑦ 身しん代だいを燃やしちまったり、大切な身内を死なせちまったり、そんな奴やつは掃いて捨てるほどいるんだ。もう、火事なんざたくさんだ。こりごりだ。血を吐く思いでそう願う。それでも、江戸で暮らす限り、火事はし

よつちゆう、あちこちで起きやがる。そうなりや、もう笑い飛ばして受け入れるしかねえじゃねえか。『火事は江戸

の華』ってえのは、何度焼け出されても逞たくましく暮らしていくための、江戸っ子らしい、瘦やせ我慢の ⑧ 方便べんぽうだよ」

④ 凝り固こまったものを全て吐き出して空っぽになった長太郎の心に、辰之助の言葉はすんなりと滲しみみこんだ。

江戸の人達は、火事を楽しんでる訳じゃなかった。

江戸は、藤馬と同じ痛みを抱えた人が、沢山暮らしている町だった。

⑤ 堪忍かんにんな。

自分で驚くほど、その言葉が滑らかに口から零れ落ちた。

ぽん、ぽん、と宥なだめるように肩を叩たたかれ、のろのろと顔を上げた。すっかり見慣れた、からかうような辰之助の笑

顔とぶつかる。

全て見透かされているようなのが悔しくて、長太郎はふいと顔を逸そらして空を見上げた。

品川の海と同じようにどこまでも澄んだ、けれど、紺青よりも明るさを纏まとった混じり気のない青空に、真っ白な雲

がゆつくりと流れていく。

「紺青の青も綺麗きれいやけど、私は江戸の空の青の方が綺麗きれいじゃと思います。安芸の冬空は、もつとぼんやり霞かすんどる」
「ああ、碧天へきてんの色いろだな」

「碧天」

⑥ 碧天という呼び方が何だか嬉しくて、長太郎はへへ、と小さく笑った。

(田牧大和『海の紺青、空の碧天』による)

(注1) 団十郎茶——日本の伝統色。江戸時代の歌舞伎役者「市川團十郎」が代々用いた、赤みの薄い茶色。以

下、「鳩羽鼠」(紫色を帯びたねずみ色)、「甕覗」(高麗納戸)、「蘇芳」(黒みを帯びた赤色)、

「萌黄」(青みがかかった濃い緑色)、「二藍」(青みを帯びた紫色)、「檜皮色」(ややくすんだ茶色)も伝統色。

(注2) 襲——ここは「襲の色目」のこと。衣服の表裏、また重ねて着る時の色の取り合わせ。季節や年齢で着用する色が決まっていた。以下の「梅」、「葉桜」、「夏萩」、「蟬の羽」(檜皮色と青)はその一種。

(注3) 熨斗目花色——伝統色。灰がかかった濃い青色。

(注4) 江戸勤番——大名の家臣が交代で江戸の藩邸に勤めること。

問 4 ── 線部③ 「江戸もんは、好かん」とあるが、長太郎はなぜそう思うのか。わかりやすく説明せよ。

問 5 ── 線部④ 「凝り固まったもの」とあるが、それは何か。本文中から十字以内で抜き出せ。

問 6 ── 線部⑤ 「堪忍な」とあるが、これは誰に対して、どんな気持ちを表したのか。最も適当なものを次の中から選び、記号で答えよ。

ア 姉の結婚相手である辰之助に対して、何も知らないのに、ただ江戸の人だというだけで、結婚に反対するような愚かな自分が義理の弟になることを申し訳なく思う気持ち。

イ 事実を教えてくれた辰之助に対して、自分の誤解を解いてくれたことはありがたいが、やはりそんな物騒な江戸に姉を嫁がせるわけにはいかないという気持ち。

ウ 困難にも負けずたくましく生きる江戸の人たちに対して、自分の偏見によって激しく嫌悪していたことを申し訳なく思い、許しを請いたいという気持ち。

エ 藤馬先生と同じ痛みを抱えながらも健けなげ気に生きる江戸の人たちに対して、これからもつらいことが多いだろうが、そのつらさをこらえて頑張ってほしいという気持ち。

オ 自分が敬愛する藤馬先生を実は優しく受け入れてくれていた江戸の人たちに対して、逆恨みしていた自分を厳しく責めないでほしいという気持ち。

——線部⑥「碧天という呼び方が何だか嬉しくて」とあるが、この時の長太郎の気持ちの説明として最も適当なものを次の中から選び、記号で答えよ。

ア 辰之助と行動をとともにする中で、江戸に対するわだかまりがすっかりなくなり、すがすがしい気持ちになったが、そんな気持ちを反映したかのような空の色にも、藤馬先生が好きだった海の色と同じように、特別な呼び方があることを知り、言葉の意味はよくわからないながらも、嬉しく思っている。

イ 藤馬先生が好きだった景色が何であったのかわかりながらも自分で確かめることができず、もやもやしていたが、辰之助のおかげで気持ちも晴れ、自分の心を現したような江戸の空の色にも、藤馬先生が好きだった海の色と同様に、特別な呼び方があることを知り、藤馬先生に近づけたような感じがして、嬉しく思っている。

ウ 江戸の空は火事で赤く染まった色がふさわしいと思っていたが、辰之助のようなさわやかな人が住む江戸の空は青空がふさわしいと思うようになり、その空の色に特別な呼び方があることを知り、その呼び方は江戸の海の色が好きだった藤馬先生が気に入るような呼び方だったので、嬉しく思っている。

エ 江戸に憧れていた藤馬先生には故郷の空などあまり関心はないだろうが、故郷の空の色にも特別な言い方があることを辰之助から教えてもらい、この素敵な呼び方を藤馬先生に教えてやれば、先生も故郷の空を好きになってくれるかもしれないので、嬉しく思っている。

オ せっかく江戸に対する反感もなくなり、江戸を受け入れる気持ちになっていくのに、もし辰之助が江戸の空を自慢するようなことを言えば、藤馬先生を酷い目に遭わせた江戸への反感が蘇ったかもしれないが、辰之助が余分なこととは言わず、江戸の空の色の特別な呼び方だけを言ったので、嬉しく思っている。

問8 本文を読んだ後、あるクラスでは次のように話し合った。これを読んで、後の問いに答えよ。

教師

この文章では、長太郎の、Xが丹念に描かれているので、読者は感動するのよね。教師の私としてはちよつと嫉妬すら覚えたけれど。この文章がおもしろいのはそれだけじゃないよね。長太郎の江戸見物に付き合った辰之助、この人がいい味出していると私は思うのだけれど。この人、遊び人のようにそうじゃないの。町行く女性に呉服のアドバイスをしたり、江戸で流行りはやの色を染めた布を長太郎の姉に贈ってやったり、商人なのに妻となる長太郎の姉を守るために剣術も習ったりしている。実際、長太郎を探しに来た姉が浅草で乱暴な男たちに絡まれているところを助けたし。実は最初から定吉が長太郎のことでも知ってたの。ごめん、ごめん、ネタばらししてしまった。でも、みんなもうすす分かっていたと思うけど。で、みんなは辰之助のことをどう思う？ 五人グループを作って話し合ってみて。

生徒A

まずは私から。……線部⑦なんて、この人の人柄があらわれた言動よね。たとえ結婚相手の弟だと知らなくても、この人ならこうしたと思う。私ならたとえ結婚相手の弟だとしても、その子がいきなり座り込んだら閉口するだけ。とにかくおせっかい好きな、人のいい、江戸っ子って感じよね。辰之助さんは。

生徒B

そうだよ。でも、……線部①では⑦の優しい声から一転、掠れた声で呟いているよね。さつき先生も言ってたけど、自分が長太郎の姉さんに贈った布をなぜか長太郎が持っていたので、びっくりしたのよね。この人は自分の感情を素直にあらわす人なのよね。

生徒C

でもね、そこは大人。長太郎の持っている布が気にならながらも、ここで話が途切れ、長太郎があれこれ考え出すと、自分がだまされてやっていることもばれるかもしれないと思い、……線部⑨のように、話を続けるように促したのよね。

生徒D

次は……線部㊥の辰之助の言動なんだけど、やっぱり、自分の感情が率直に出る人だよ。喚いて泣く子どもを前にすれば大人も困る。でも、ここは気のすむまで泣かせてやるしかない。長太郎に寄り添ってやっているの、この笑いは決して嘲りあざけの笑いではないだろうな。

生徒E

そうだよな。大人らしさと子供っぽさが同居しているのが、この人の魅力だよな。子供っぽさもあるから感化されやすいんだろうな。長太郎の話を聞くうちに、自分も藤馬先生に憧れるようになり、藤馬先生ならこんな場合こうするだろうなと考えて……線部㊦のように振る舞ったんだろうな。

(1)

X

にあてはまる言葉を考えて十五字以内で記せ。

(2)

生徒AとEのうち、……線部㊧と㊨について誤った捉え方をしているのは誰か。一人選び、AとEの記号で答えよ。



次の文章を読んで、後の問いに答えよ。

鳥羽僧正とばそうじょうは近き世にはならびなき絵書えかきなり。法勝寺ほつしようじの金堂の扉の絵書きたる人なり。いつほどの事にか(注1)① 供米くまいの不法の事ありける時、絵に書かれける。辻風つじかぜの吹きたるに、米の俵をおほく吹き上げたるが、塵灰じんかいのごとくに空にあがるを、(注2)② 大童子だいたうじ・法師ほふしばら走り散りて、取りとどめんとしたるを、さまざまおもしろう筆をふるひて書かれたりけるを、(注3)③ 誰かしたりけん、その絵を院御覽いんごんじて、御入興(注4)ありけり。その心を僧正に御尋ねありければ、「あまりに供米不法きうまいふぽうに候まうひて、実の物は入り候はで、糟糠かすぬかのみ入りて軽く候ふゆゑに、辻風に吹き上げられしを、(注5)④ さりとてはとて、小法師せうぼうしばら取りとどめんとし候ふが、(注5)⑤ をかしう候ふを書きて候ふ」と申されければ、比興ひきょうの事なりとて、(注6)⑥ それより供米の沙汰さたきびしくなりて、不法の事なかりけり。

〔古今著聞集〕による

(注1) 供米——寺に納める米。

(注2) 大童子・法師ばら——「大童子」は僧の召し使った男子。「ばら」は「たち」。

(注3) 院——白河法皇か。

(注4) 御入興——おもしろがりなきること。興味をおもちになること。

(注5) 比興の事なり——不都合なことだ。けしからんことだ。

問 4

——線部④「さりとはとて」とあるが、どういう意味か。最も適当なものを次の中から選び、記号で答えよ。

- ア そうはいってもやはり米は納めなければならぬと思つて
- イ そのままでは食べるものがなくなつてしまふと気づいて
- ウ そんなにおもしろがつていないで片付けろと指示されて
- エ それというのも実は仏のご加護だったと気づいて
- オ そうかといつてそのまま放つてはおけないと思つて

問 5

——線部⑤「をかしう候ふを書きて候ふ」とあるが、ここから鳥羽僧正のどのような一面が読み取れるか。最も適当なものを次の中から選び、記号で答えよ。

- ア 思いがけない出来事により供米の不正が明るみに出てしまい、法師たちが慌てふためく様子をおもしろがるというひねくれた一面。
- イ 修行を積んだはずの法師たちが食糧と財産という世俗にまみれたものに右往左往している様子をあきらめの気持ちで眺めるといふ皮肉屋の一面。
- ウ 法師たちが超常現象に大騒ぎしているというだけでなく、仏による奇跡というものが実際に存在するのだという感動を絵にする信仰心の深い一面。
- エ 完璧に寺側をだまし続けていた農民たちの巧妙な手口に感心し、農民たちにそこまでさせる政治のあり方に一言もの申すといふ正義感の強い一面。
- オ 法師たちの間抜けさだけではなく、それを絵にすることによって自らの画力の確かさを院や世間に認めさせることができると思ふ狡狴な一面。

問6

——線部⑥「それより供米の沙汰きびしくなりて」とあるが、なぜか。最も適当なものを次の中から選び、記号で答えよ。

- ア 鳥羽僧正が描いた絵を世の中に広めたところ、不正を働いていた人々がそろって反省したから。
- イ 最初は絵を単に楽しんでいた院が、そこに不正が露あらわになっていて、それを理解したから。
- ウ 鳥羽僧正が描いた絵によって過ちを指摘された寺が、人々からの信仰を集められなくなったから。
- エ 供米の取り立てに苦しむ農民の思いを汲んだ院が、鳥羽僧正の絵を世の中に広めたから。
- オ 不浄なものはないはずの寺に供米が集められているのは、仏の教えに反することだと院が気づいたから。

問7

次の画は、鳥羽僧正作と伝えられている絵巻の一部である。この絵巻物の名前を漢字で答えよ。

